

# 郷土芸能(民俗芸能)と女子

郷土芸能(民俗芸能)には、神楽、田植踊、剣舞、鹿踊、盆踊りなどたくさんの種類があります。現在では、これらに女性がたくさん参加しています。今や以前は男性だけだった激しい所作を伴う郷土芸能も女性抜きに語れなくなっています。



神楽は、大方男性だけで舞って来たようで第二次世界大戦中や戦後の一時期、男性が居ないため女性が祭礼に舞っていた団体もありました。神楽は、祭礼の祭儀に欠かせない芸能なので女性が替わって奉仕したようです。現在も矢巾町や平泉町、遠野市、大槌町などでもその様な考えから女性が主体と成って神楽を継続させています。現在では、神楽の魅力に惹かれ団体に加入する女性も増えています。

剣舞は地域によって様々な形態で传承されていますが、基本的に集落中心に盆供養をするために踊られています。剣舞も大方男性中心で集落の家督が引き継いできました。

大念佛剣舞や高館剣舞などは、時代の移り変わりの中で子どもの踊る部分に女子が加わりだし、大人まで広がって、現在では混成で踊る団体が増えています。

又、北上地方のひな子剣舞は、大念佛剣舞からひな子の部分が独立した芸能と言われ、男女の子どもを中心に踊る形態で传承されて来ました。

鬼剣舞は、高校や全国への広がりの中で女性の参加が増えて来ました。その流の中で地元でも女性の活躍が目立つようになり、多くの団体が女性の踊り手を受け入れています。



鹿踊は、幕踊り系と太鼓踊り系があります。幕踊り系は、シシ以外の刀振りや綾踊りなどが早くから女性に替わり、むしろ女性のしなやかな所作が芸能全体の魅力になっているようです。

太鼓踊り系は、体力が必要な踊りですが高校では女性が増えています。保存団体でも高校を卒業した女性たちが加わるなどして活躍しています。

田植踊は、庭田植踊と座敷田植踊があり、子どもの女子が綾踊りなどを踊りますが、主要な踊り手は、男性で占められて来ました。現在は、踊り手全般に女性が担い手になっている傾向が強まっています



多くの郷土芸能が男性中心でしたが、近年益々女性の担い手が伝承活動に大きな役割を果たしています。北上・みちのく芸能まつりは、56回の開催を通じて郷土芸能の復活・継承に大きな役割を果たしてきましたが、新たな社会状況を踏まえて、これからの郷土芸能継承のあり方をみんなで考えて行きたいと思えます。